



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

## 目次

国際シンポジウムETD2006からみた 世界の電子学位論文とカナダの大学図書館・ 公立図書館（川窪知子） .....	1
エココレクション（環境共生）データベース の現状と今後の課題（川添真澄） .....	4
名古屋大学附属図書館友の会へようこそ 211人目の会員のあなたに .....	8
利用者から見た図書館 .....	10
学内教員著作物の寄贈リスト .....	11

## 国際シンポジウムETD2006からみた 世界の電子学位論文とカナダの大学図書館・公立図書館

川 窪 知 子

2006年6月6日～6月15日、カナダへの海外出張の機会を得ました。

目的は、国際シンポジウムETD2006へ参加しETDs（Electronic Theses and Dissertations 電子学位論文）に関する情報を得ること、北米でも最大規模のトロント大学図書館、多民族・多文化社会でありながら充実したサービスを行っているトロント公立図書館を訪問調査することでした。

### 1. ETD2006 : The 9th International Symposium on Electronic Theses and Dissertations

<http://www6.bibl.ulaval.ca:8080/etd2006/pages/index.jsf>

期間：2006年6月7日～6月10日

場所：カナダ・ケベックシティ

主催：ラバル大学図書館

NDLTD (Networked Digital Library of Theses and Dissertations <http://www.ndltd.org/index.en.html>) の賛助によるETDsに関するシンポジウムの開催は今年で9回目を数え、各国から多数の参加がありました。

NDLTDは1990年代、バージニア工科大学のワーキンググループとして発足し、大学・地域センター・コンソーシアムなど、北米を中心に

世界各地の数百の会員が所属している非営利の国際団体です。

学位論文の電子化を推進し、学生がマルチメディアやハイパーメディア技術、電子図書館を活用して論文を保存・発信し、研究成果に価値を与えることを目標としています。ソフトウェアETD-dbの開発等各機関がweb上でETDsを公開する取り組みをサポートし、またETDs専用のメタデータETD-MSを推奨するなど、それらを単一のアクセスポイントから検索・ブラウズすることができる union catalog (<http://zipbo.vtls.com/cgi-bin/ndltd/chameleon>) の構築等に努めています。

バージニア工科大学は最初にETDsによる提出を義務化しましたが、その後義務化する大学院も増加しているということです。

今回、“Unlocking Scholarly Access : ETDs, Institutional Repositories and Creators”というテーマで、4名の基調講演、11の分科会、ポスターセッション、ワークショップ、パネルディスカッション等、充実したプログラムが生まれ、ETDsに必要な新情報や技術的な情報が提示されました。

基調講演 1つ目のオープンアクセスについ



写真1 ETD2006参加者の方々と

て、Peter Suber氏（アラム大学）は、オープンアクセス資料を、デジタル、オンライン、無料でcopyrightやライセンス制限が無いものであると定義し、ETDsはオープンアクセスに最も合ったジャンルの一つであると強調しました。

ただ、厳密なレビューを受け、研究者にとって最も役に立つ情報源であるかもしれない博士論文が、今のところ非常にアクセスしにくい環境にあることを指摘し、大学がETDsに関してオープンアクセスを命じることを推奨されていました。

オープンアクセスの分科会では、ウォータールー大学から、カナダで初のETDs提出を義務化した大学の決定について興味深い説明がありました。学術情報が電子媒体でいつでもどこからでもアクセス可能になるに従って、教授陣が電子出版の考えを認識し始め、それと同時に、学生がETDsに関して熱心になったそうです。

基調講演2つ目のオープンソースについて、Art Rhyono氏（ウインザー大学）は、商用ソフトウェア開発者による「カセドラル・モデル」とオープンソースの「バザール・モデル」2つの異なったソフトウェアの開発スタイルを提示し、また、Open Office、Flickr、Linuxといったオープンソースソフトウェアやシステムにおける最新の傾向と情報へのアクセスにおける影響について述べられました。

オープンソースのワークショップでは、ウェブ上でXMLフォーマットの文書を公開するCyberdocs (<http://sourcesup.cru.fr/projects/cyberdocs/>)

について、そのインストールと設定手順、およびCybertheses、SDXを介してのETDs作成の流れが取上げられました。

基調講演3つ目はCreative Commons Canada (<http://creativecommons.org>) の共同ディレクターMarcus Bornfreund氏が、Peter Suber氏のオープンアクセスの議論にうまく結びつけて知的所有権に関して論じました。

Creative Commons Public Licenseにより、Web上で公開されている資料について、どのように利用できるかを、いくつかの条件を組み合わせることで、あらかじめ提示するという点で、これまでの著作権処理の煩雑さを軽減できるという利点が指摘されました。

最後の基調講演ではJean -Claude Guedon氏（モントリオール大学）が会議全体のまとめをしました。

氏は学術機関リポジトリ（IR）におけるオープンアクセス雑誌やETDs、セルフアーカイビング等の例を挙げ、多くの機関の教授陣は研究成果をIRに保管するという選択肢を持っているが、その利得を認識していないので抵抗感を持っており、コンテンツが混在したIRの中では、十分高い注目・評価を得られないと感じていると指摘されました。そこで氏は、IRの一つのセクションにETDsを置くことを勧め、次のように提言されました。「ETDsは、教授陣の論文提出のための実証実験になるだろう。すなわち、教授陣の研究よりもETDsがより多く使用され、引用されれば、彼らはIRの有用性や影響力を認識し、IRに投稿するようになるだろう。」

その他多くの分科会で各機関の興味深い取り組みや技術等が紹介されました。

電子文書の長期保存の取り組みについては、ドイツ国立図書館からkopal (<http://kopal.langzeitarchivierung.de/index.php.en>)、フロリダ州立大学からDAITSS (<http://www.fcla.edu/digitalArchive/pdfs/DAITSS.pdf>) NDLTDからLOCKSS (<http://lockss.stanford.edu>) が紹介されました。会議の主催ラバル大学図書館はフランス語を話す学生のニーズに応え、様々なドキュメント形式からメタデータと全文に索引付けするために、自前でArchimede (<http://www.bibl.ulaval.ca/archimede/index.en.html>) というオープンソースを開発し、

ETDsを保管しているそうです。

また、次回会議の主催スウェーデンのウプサラ大学が中心となって、デジタルワークフローDIWAシステムと、DIWAとともに稼動しているIRで、拡張および共同利用可能なオープンソースDiVA (<http://www.diva-portal.org/>) を構築している事例も興味深いものでした。

また、約4万7千件のETDsへのアクセスを提供するTheses Canada Portal (<http://www.collectionscanada.ca/thesescanada>) やETDsをBritish Libraryの中央リポジトリに保存できるサービスを目指すEThOS project ([http://www.jisc.ac.uk/index.cfm?name=project\\_ethos](http://www.jisc.ac.uk/index.cfm?name=project_ethos)) といった国家的な取組みも紹介され、世界的にETDsが注目されてきていると実感し、日本において、灰色文献と言われ入手が困難であった学位論文も、その在り方が変わるだろうと期待を持ちました。

## 2. トロント大学図書館訪問



写真2 トロント大学ロバーツ図書館

トロント大学は1827年創立、学生数約6万3千人という北米でも屈指の大規模総合大学で、図書館はカナダオンタリオ州のコンソーシアムで、中心的な役割を担っています。学内には大小合わせて約40の図書館があり、今回訪れたのは人文・社会科学を主とする大学の中央館ロバーツ図書館でした。

建物は三角柱で、学内でも目を引く独特な形をしています。その広い館内を日本研究司書Lynne Kutsukakeさんに案内していただきました。荘厳な雰囲気につつまれた貴重書室

Thomas Fischer Rare Book LibraryやScotiabank銀行が出資したInformation Commons、教員へコンピュータ技術を用いた教材の作成支援を行うResource Centre for Academic Technology、大学院生が館内の図書を持ち込み、私室化している研究個室等々、感嘆と驚きの見学後、7名もの責任者の皆様からお話しを伺うことができました。

学生のリテラシー教育は、名古屋大学と同様に新生向けにセミナーやツアーを行っている他、1～1.5時間でOPAC、EJ、データベース等クラスを設け希望する学生に指導しているそうです。

また、Web上でメールアドレス等が公開されている「リエゾン・ライブラリアン」と呼ばれる専門分野を持ったスタッフが、個々に教員、学生からのレファレンスに応じているとのことでした。

スタッフ教育は、Web上で各種研修の情報を流しており、図書館内では、データベース毎の勉強会を実施し、発表会を行なう等しているそうです。学外への研修や出張については、自発的に参加したい会議やセミナー等を見つけ、参加希望を出して折衝するということでした。

図書館の広報活動は、とくに資金提供の呼びかけに力を入れ、担当の方によると、予算不足を補い、北米屈指の図書館を維持するため、友の会、同窓会や卒業生のいる企業の集まりに顔を出すなど、寄附金集めに奔走しているとのことでした。図書館HPにも「Support the library」というリンクを設け、寄附を呼びかけています。

最近各地の大学で増えつつあるInformation Commonsは、160台もの端末が設置され、スキャナ、プリンター等が開放され、個人での利用を中心に、数室はグループで利用できる環境を作り、ヘルプデスクやライセンス登録申請オフィス等により、サポート体制も整えられています。

選書や装備のアウトソーシングについても前向きな導入がなされ、サブジェクトライブラリアンがカバーできない分野についてベンダーに選書してもらうことができ、助かっているとのことでした。

### 3. トロント公立図書館訪問

トロント市内には、現在99の図書館があり、そのうち17館がDistrict Branchesに選定されています。今回訪問したLillian H. Smith Branchもその一つで、神話に登場しそうな建物と周辺地域に住む中国人の利用者を意識した蔵書構成や館内サインが印象的でした。

司書Lillian H. Smithの精力的な児童サービス活動に感銘を受けたイギリス人図書館員Edger Osborne氏により児童古書(14世紀~)コレクションが寄贈され、「オズボーン・コレクション」([http://www.tpl.toronto.on.ca/uni\\_spe\\_osb\\_collection.jsp](http://www.tpl.toronto.on.ca/uni_spe_osb_collection.jsp))として専門司書により維持管理されています。

エレクトリック・リソース・センターでは、利用者が自由にパソコンを使って情報にアクセスしたり、講習会等が開かれたりしているようで、とても賑わっていました。

地域の大学との連携は全くないそうですが、分館間交流はさかんで、博物館・美術館とも協力して展示会等行っているということです。

訪加、国際シンポジウム参加、海外の図書館

(かわくぼ・ともこ 工学図書室)



写真3 Lillian H. Smith Branch (トロント公立図書館)

訪問、全て初めての経験かつ単独行動ということで、不安を抱きつつ出発しました。しかし、事前準備ではたくさんの方からアドバイスやコンタクトパーソンの情報等を頂戴し、現地では一人たたずむ日本人に気さくに話しかけてくださる方々と出会い、この出張を有意義なものにすることができました。この場を借りて、皆様に御礼申し上げます。

---

## エココレクション(環境共生)データベースの現状と今後の課題

川 添 真 澄

### 1. エココレクションの現在

附属図書館ホームページで公開しているエココレクション(環境共生)データベースは、現在、以下の3つのコンテンツで構成されている。

#### 1) 高木家文書デジタルライブラリー

高木家文書は、宝暦治水をはじめ木曾三川流域治水史料の宝庫として知られる総点数10万点に及ぶ一大古文書群であり、自然と人間の関係史をリアルに伝える当館所蔵資料である。このデジタルライブラリーでは、西高木家の分家である東高木家、北高木家に関する文書(いずれも個人所蔵史料)も、所蔵者のご協力を得てあわせて公開している。

#### 2) 伊藤圭介文庫 - 錦窠図譜の世界 -

伊藤圭介は名古屋に生まれ、幕末から明治にかけて活躍した、わが国最初の理学博士、博物学者であり、日本における近代植物学の祖とされる人物である(錦窠は圭介の号)。伊藤圭介文庫は、動植物に関する稿本を集めた本学所蔵資料を中心としたデータベースで、美しい彩色画像も多数含まれている。現在の当館ホームページロゴの椿の花も、錦窠植物図説の画像からとっている。

#### 3) 木曾三川流域環境史GIS

1)、2)については、附属図書館で開催した特別展「錦窠図譜の世界」(2003年10月)

「川とともに生きてきた」(2003年4月)および「同」(2004年10月)の電子展示および図書館ホームページ上で公開してきた。平成16年度からは、これらを統合した「エココレクションデータベース(図1)」として、独立行政法人日本学術振興会平成16~18年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受け、所蔵資料のデジタル化=画像データの作成・メタデータの付与・翻刻作業等を精力的に行い、現在も構築を進めているところである。全体の5か年計画のうち、今年度は3年目にあたる。平成17年度から、新たに開発・構築されたコンテンツ3)について、少し詳しくご紹介したい。



図1 <エココレクショントップページ>

<http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/eco/index.html>

## 2. 木曾三川流域環境史GIS

このコンテンツは「GIS地理情報システム」<sup>注1)</sup>「地形の変遷」「古絵図コレクション」で構成されており、過去の資料と現在のデータを結びつける試みを行っている。ここでは、GISを用いて、木曾三川での治水の歴史・災害史・碑・古絵図を動的に閲覧することができる。

### 2.1 地図の表示

表示させることのできる地図は下記の4種類である。

#### 1) 現在地図

20万分の1 広域地図

5万分の1 地形図(流域主要部)

#### 2) 旧版地図

明治22年頃~平成6年までの各年代の5万分の1 地形図(12種類)

#### 3) 古絵図

#### 4) 衛星画像

LANDSAT(広域)

BASEIMAGE(流域主要部)

## 2.2 コンテンツ

### 1) GIS地理情報システム

主題別アプローチとして次の4つを提供。

#### i) 災害ハザードマップ

地方自治体の提供するハザードマップをもとに、災害予想の視覚化をめざしている。

#### ii) 治水の歴史

古絵図アニメーションと三次元コンピュータグラフィックスによる解説。古絵図にナレーションつきアニメーションを施して当時の災害状況を表現し、絵図から起こした工区を立体的に再現した三次元CGで、当時の人々の苦労の跡を見ることができる。(図2)

#### iii) 碑(いしぶみ)めぐり

関連する史跡である碑がマッピングされ、碑の解説と写真が閲覧できる。

#### iv) 人々の暮らし(美濃国地誌)

明治政府による皇国地誌編纂に際し、1881年(明治14)、岐阜県で作成された「美濃国各郡町村略誌」をもとに、その地誌情報をデータベース化し、GISを用いて図像化したもの。(図3)

### 2) 地形の変遷(並べて閲覧)

それぞれの時代の地図を並べて表示することによって、流域の状態の変化を容易に確認することができる。(図4)

### 3) 古絵図コレクション

高木家文書からセレクトされた古絵図の高精細デジタル画像。平成18年10月現在9点を掲載。実際の古絵図は、大きさや取扱いなど、物理的制約から、広げて見ることが難しいが、電子化することによって、数枚に分割して描かれた巨大な古絵図も容易に全体を俯瞰することや、自由にズームインして閲覧することが可能となっている。また、幾何補正を施すことにより、1) 2)のコンテンツで現在地図や衛星画像と並べたり、重ねて表示することも可能である。

高精細画像・幾何補正・GISといった最新の技術で江戸時代の古絵図から現代の衛星写真までを重ね合わせたり、並べて表示することによって、さらにはハザードマップなどのデータを視覚化して重ねることによって、新たな発見をすることができる。紙面では限りがあるが、表示例(図2~4)をご覧ください。

なお、実際のデータベースでは、ZOOMA(ビューワ)を使用し、表示した各図は並べたり、重ねたりしたまま、同期をとってスムーズに拡大/縮小、表示部分の移動を行うことも可能である。興味をお持ちになった方は是非、お試しいただきたい。(対応ブラウザはInternet Explorer 6.0以上、コンテンツによって幾つかのActivXのダウンロードが必要)

注1)「GIS(地理情報システム)とは:位置や空間に関する情報をもったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示できる高度な分析や迅速な判断を可能にする技術です。」(GISホームページ <http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/gis/>より)

### 3. 今年度の開発予定

以下の3点は、附属図書館2006年秋季特別展(地域貢献特別支援事業成果報告)「江戸時代の村と地域」にあわせて作業を終え、データベースに搭載済みである。

- 1) 衛星画像の主要部についてBASEIMAGEを導入し、画像解像度をアップした(分解能30M 10M)。
- 2) 流域主要部の5万分の1地形図エリアを従来の3面から9面へ拡大した。
- 3) 治水の歴史における羽根谷コンテンツのアニメーションおよび三次元コンピュータグラフィックスを改良し、ナレーションの追加等を行った。

その他、レコード追加以外の項目として、主題別アプローチについて、下記の開発を予定している。

#### i) ハザードマップ

大垣市・海津市・名古屋市天白区を追加。

#### ii) 治水の歴史

油島・大樽川の治水に関するコンテンツを

加える。

#### iii) 碑めぐり

碑の拓本画像データと翻刻文表示を行う。

#### iv) 人々の暮らし

エリアを拡大し、美濃地域全体とする。

### 4. 今後の課題

当データベースは自然との共生が見直される今日、環境への負荷が少ない社会を築くための研究への応用のみならず、生涯学習を含む教育分野においても有用性が高く、現代的な価値が大きい。さらに、今後は、学内で生成される研究成果や所蔵する台風、地震等の自然災害関連資料、博物館などの電子化を行い、東海地区の関連機関との連携により、時代を超えた環境共生データベースを目指している。

この記事をご覧になって、少しでも興味を持っていただければ幸いです。そして、是非、実際にアクセスして、新たな発見をしていただきたい。



図2 <治水の歴史>

安政3年(1856)羽根谷の砂防工事の様子を、古絵図をもとにしたアニメーションと、三次元コンピュータグラフィックスで表現。

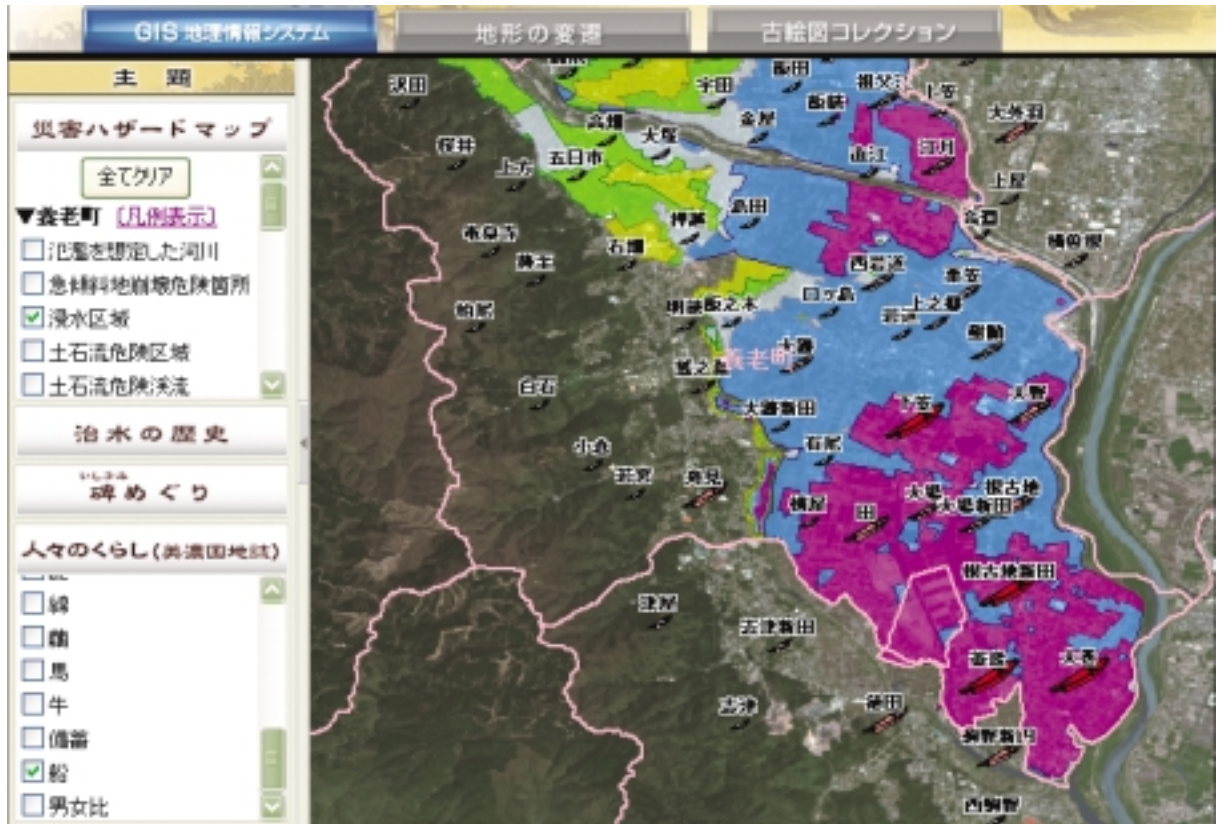


図3 <災害ハザードマップ> <人々の暮らし>

現在の養老町のハザードマップを元にした浸水区域（色彩で表現）に、明治41年の「美濃国各郡町村略誌」の地誌情報データ「舟」を重ねて表示したもの。背景は衛星写真（BASEIMAGE）

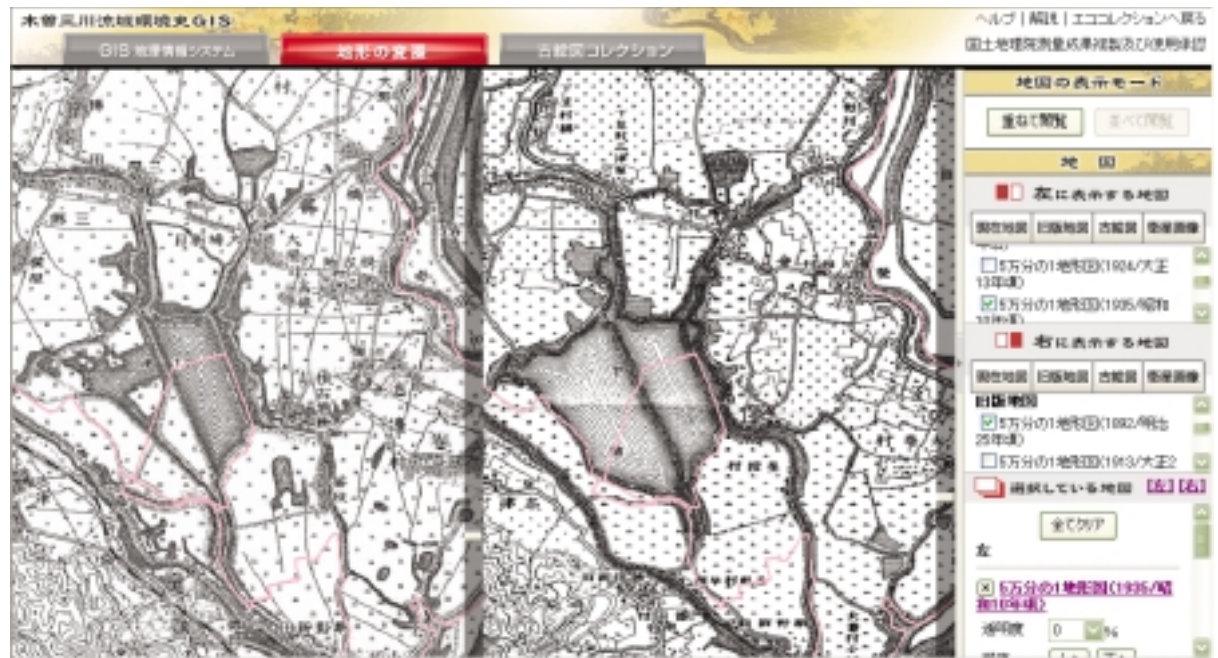


図4 <地形の変遷>

昭和10年頃（左）、明治25年頃（右）の地形図を並べて表示したもの。中央部にあった池が干拓され、水田になりつつある。さらに時代が下り、戦後の地形図になると、残りの水面も全て水田になっている。

（この地図は測量法第29条に基づく複製承認を得て、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したもの（平18総復、第136号）を転載したものです。）

物理的な劣化や、大きさ、取扱など、現物を閲覧に供することが難しいタイプの資料も、技術とネットワークによって、より多くの人に、どこからでも気軽に使っていただけることが可能になった。従来こういった資料に触れる機会がなかった方々からも今後、いままでと全く違

った切り口の学習・研究成果が生まれるのではないかと期待している。

今後とも、データの充実とともに、使い勝手の改善に継続して取り組む所存である。まだまだ発展途上のデータベースであり、利用された方々からのフィードバックをお願いしたい。

このDBに関連する本誌記事：

「附属図書館展示会<川とともに生きてきた>を終えて」no.139(May 2001)

「2003年春季特別展『川とともに生きてきたIIを終えて』」no.148(Aug 2003)

「伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会を終えて」no.150(Feb 2004)

「2004年秋季特別展『川とともに生きてきたIII』を終えて」no.154(Feb 2005)

(かわぞえ ますみ 情報システム課課長補佐)



## 名古屋大学附属図書館友の会へようこそ 211人目の会員のあなたに

ご存知でしょうか？ 名古屋大学附属図書館に友の会があることを。

名古屋大学附属図書館友の会は、2004年10月に任意団体として設立されました。ただいま210名の方々が入会しています。

### 名古屋大学附属図書館友の会 Q & A

まず、友の会の概要を知っていただくために Q & A の形で、ご紹介します。

Q 1 どうして大学図書館に友の会があるのですか？

A 1 「友の会通信」第1号から、友の会会長の言葉をご紹介します。

「名古屋大学附属図書館を地域に開かれた広場 にしていきたいという願いから生まれたこの会が、本との関わり、そして大学図書館との関わりを大切に思う人々の輪を少しずつでも広げているとすれば、大変喜ばしいことだと思います。(中略)名古屋大学附属図書館を“わたしたちの図書館”と考えてくださる方々が今後ますます増えていくことを願っています。」

Q 2 会員になるために何か資格は必要ですか？

A 2 会の趣旨に賛同される、市民、学生(高校生以下の生徒を除く)、職員、図書館職員OBであればOKです。

Q 3 会員になったら特典はありますか？

A 3 (1)中央図書館利用証が発行され、図書館の館外貸出ができます。(2)中央図書館で、学外への文献複写依頼が利用できます。(3)図書館広報誌「館燈」、研究開発室広報誌「LIBST Newsletter」などが毎号郵送されます。(4)図書館が主催する春、秋の企画展示会・講演会などにご招待します。(5)図書館出版物の値引きサービスを受けられます。

Q 4 入会の手続きはどうすればよいのですか？

A 4 名古屋大学中央図書館2階受付に申込書を用意しています。友の会のホームページから印刷することもできます。

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/index.html>

友の会は、会員のみなさまの会費によって活動していますので、市民、学生の一般会員



の方には、年会費として2千円をいただいています。

**友の会の組織と活動**

友の会には、本学の教員でもある会長、理事がいます。事務局は、附属図書館事務部内にあります。

活動として、年に4回開催している「トークサロン ふみよむゆふべ」をご紹介します。

「ふみよむゆふべ」は、古文書や書物の本文(テキスト)、絵画などを「読む」ことを趣旨として、語り手と会員との自由闊達な話を楽しむ会です。

今後、次の会を予定しています。

第6回 平成18年12月8日(金)

「貝原益軒『養生訓』と道教思想」

かたり：神塚 淑子氏(名古屋大学大学院文学研究科 中国哲学)

第7回 平成19年3月9日(金)

「般若経の中の気になる表現」

かたり：和田 壽弘氏(名古屋大学大学院文学研究科 インド文化学)

時間はいずれも午後6:00~7:30、会場は中央図書館5階多目的室です。

**友の会の会員**

9月末現在で、210名(一般会員 200名、賛助会員5名、準会員5名)の方が入会しています。

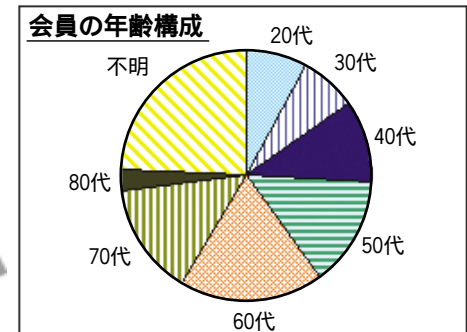
申込書の年齢欄は自由記述ですが、年齢の分かっている会員の中では、21歳から86歳まで各世代にわたっています。

また、名古屋市内の会員が64%を占めています。

会員の方々への連絡は、電子メールのアドレスを持っている人(あるいは申込書に記入した人)が89名(42%)しかおられないので、郵便を利用しています。

**これからの友の会**

米国では、図書館自らが大学外部から運営資金を獲得するため、寄附金を求めたり、バザーを開いたり、さまざまな資金調達活動を行っています。大学図書館友の会も、米国では重要な資金調達活動の一つで、図書館活動の支援を主な目的としています。



年齢構成	20代	16名	60代	40名
	30代	16名	70代	30名
	40代	22名	80代	6名
	50代	29名	不明	51名



一方、日本では、公共図書館には多くの友の会がありますが、大学図書館ではまだ少なく、名古屋大学附属図書館友の会の活動も、今後、会員や大学、図書館など多くの方々と相談しながら進めていくこととなります。

あなたも、211人目の会員になられませんか？

### ご入会のお問合せ

名古屋大学中央図書館 2 階受付、または友の会事務局（電話 052-789-3666）までご連絡ください。

ホームページもあります。

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/index.html>

電子メール: [tomo@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:tomo@nul.nagoya-u.ac.jp)

友の会事務局



## 利用者から見た図書館

### 地域社会に根ざした大学図書館

丸山俊紀

先日、名古屋大学附属図書館が開催した「江戸時代の村と地域 - 美濃養老・日比家文書に見る暮らしと災害 - 」という展示会に足を運んでみました。濃尾平野三大河川の一つである揖斐川の中流域で頻発する水害や土石流災害と闘いながら暮らした村の人々や地域の様子を、当時作成された文書や地図等を手がかりにして振り返る、という内容のものでした。

諸資料の中には「自然災害との共存」という大きな課題に取り組む人々の真剣な姿や、災害対策事業を進行していく中での人間関係や利害関係等に苦悩する人々の姿が鮮明に描かれていました。また、当時の村の有り様や人々の風俗も垣間見ることができ、当時の様子をありありと思い浮かべつつ様々な資料に目を馳せていました。

少々前置きが長くなってしまいましたが、今回の体験を通じて私自身が感じたことをこれから少々述べてみたいと思います。

それは「地域社会の伝統の発信者としての大学図書館」というあり方です。大学の図書館である以上、学術的価値の高い文字資料を提供するという機能はもちろん重要ではあります。しかしその一方で、地域に根ざした図書館として、その地域の中で育まれてきた様々な伝統を紹介していくというあり方に私は今注目しています。

グローバル化が叫ばれる現在、大学の図書館はその機能面において国際性を高めつつあります。その一方で、長い時間をかけて育まれてきた地域社会の伝統を保持し継承していくこともまた大学の図書館が担う重要な機能の一つであ

ると実感しました。一般の図書館には無い学術的な水準の高さを活かすことによって、よりよい形での伝統の保持と継承を先導していくことができるのではないのでしょうか。

現在、名古屋大学附属図書館には東海地方の地域社会の伝統を記した貴重な文字資料が多数所蔵されています。それらの資料をただ「貴重なもの」として所蔵しておくだけでなく、催事等の中で、専門家による解説やコメントを付す

ことによって理解の容易な、かつ生きた形で公開しています。また、それによって地域社会の伝統に対する関心を喚起したり、あるいは理解を深める時間を提供してくれます。

時には研究の手を休め、催事等を通じて地域社会の伝統に触れつつ、静かに過去へ思いを馳せてみるのもいいのではないのでしょうか。

(まるやま としき 文学部4年)

~~~~~

## 本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成18年7・9月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

| 所 属             | 寄贈者名   | 寄 贈 資 料 名                                                                                                                                  | 資料ID     | 配置場所             |
|-----------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|------------------|
| 名 誉 教 授         | 藤 井 隆  | 人類社会経営論 / 藤井隆著. - 東洋経済リサーチセンター, 2006.4.                                                                                                    | 11550182 | 中央学<br>333/H     |
| 文学研究科           | 金山弥平   | 論理学者たちへの論駁 / セクストス・エンペイリコス [著]; 金山弥平, 金山万里子訳. - 京都大学学術出版会, 2006.8. - (西洋古典叢書. 学者たちへの論駁; 2).                                                | 11551827 | 中央学<br>131.7/Se  |
| 工学研究科           | 伊藤義人   | なごや平和公園の自然 / 伊藤義人著. - 2. - なごや平和公園自然観察会, 2006.6.                                                                                           | 11550181 | 中央学<br>460.7/I   |
| 生命農学研究科         | 柴田 叡 弐 | 森林フィールドサイエンス / 全国大学演習林協議会編. - 朝倉書店, 2006.4.                                                                                                | 11547194 | 中央学<br>653.17/Z  |
| 多元数理科学<br>研 究 科 | 伊 山 修  | 第38回環論および表現論シンポジウム報告書 = Proceedings of the 38th Symposium on Ring Theory and Representation Theory / 研究代表者 佐藤真久; 若松隆義編集. - [山梨大学], 2006.3. | 11550183 | 中央図<br>411.72/Sa |

### 「館長と話そう! 2006」を開催します

12月8日(金) 15時~

中央図書館5階小会議室

参加対象 : 本学の学部生、大学院生、留学生

参加人数 : 約15名

応募要領 : 参加応募用紙に必要事項を記入して、中央図書館受付カウンターへ提出してください。(用紙は受付カウンターに備え付けてあります。)附属図書館ホームページからも応募できます。締め切りは、11月27日(月)

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/news/archive/na1.html#291>

名古屋大学附属図書館・名古屋大学EU資料センター展示会・講演会のご案内

「西洋の発見 - 幕末・維新期の遣外使節と留学生達 - 」

岩倉具視を正使とする明治4年からの遣米欧使節団の行程・記録をパネル化したものをメイン展示とし、それ以外に、江戸幕末から明治初頭にかけて、欧米視察に参加したり、留学した日本人の残した記録や日記類の中から、日本の近代化の推進に関わった資料で本学が所蔵するものなどを展示し、約130～150年前の日本人がどのように西欧諸国を見て理解し、参考にして、その後の日本の礎を築いたかを現在のEU ( European Union ) の活動と共に展示します。

展示会

2006年11月10日(金)～11月24日(金)  
毎日9時～17時(日曜日は閉室)  
中央図書館展示室ほか(4階)  
入場は無料

講演会

11月16日(木)  
13時30分～14時30分  
中央図書館多目的室(5階)  
講演：神保文夫  
(名古屋大学法学研究科教授)  
「幕末・明治の遣外使節と西欧近代法知識の移入」

電子展示

[http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/  
event/tenji/2006seiyou/](http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/event/tenji/2006seiyou/)



●●●●●●●●●● [ 行事等 ] < 18.7.6 ~ 18.10.5 > ●●●●●●●●●●

- ・平成18年度学術ポータル担当者研修(情報学研究所と共催)(於：中央図書館)<8.30～9.1>
- ・東海地区国立大学図書館長懇談会(於：中央図書館)<9.12>
- ・平成18年度目録システム地域講習会(情報学研究所と共催)(於：中央図書館)<9.13～15>
- ・名古屋大学附属図書館2006年秋季特別展「江戸時代の村と地域 - 美濃養老・日比家文書にみる暮らしと災害 - 」(於：中央図書館)<9.29～10.20>
- ・名古屋大学ホームカミングデー中央図書館企画実施(秋季特別展開催、オープンライブラリ、館内見学ツアー、スライドショー上映)

- 部局動向
- 図書担当組織の改編
- 太陽地球環境研究所会計掛 研究所事務部経理課 第一経理掛<10.1>
- 環境医学研究所会計掛 研究所事務部経理課第二経理掛<10.1>

編集委員会

- 中井えり子(委員長) 蒲生英博(中) 藤田恵美(中)
- 堀 茂(中) 渡邊昌子(法) 畠山輝敏(育) 山口典子(医) 山川幸恵(農)